

# 令和3年度 水稻除草剤処理体系

令和2年11月30日現在

☆減農薬栽培が求められています。

◆畦畔処理からの漏水に注意し、ていねいな代かきを実施して除草剤が1回で済むように心がけましょう。

☆水田除草剤や本田殺虫殺菌剤散布後7日間は、落水や掛け流しをしてはいけません。

【10a 当り 使用量】

除草剤 1 回 処理 ( 雑草 の 少 ない 場 合 )	
-9	
-8	
-7	
-6	
-5	
-4	
-3	
-2	
-1	
田植日	
1	
2	
3	
4	
5	バッチリLXフロアブル 500ml 移植直後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)
6	カウントダウンフロアブル 500ml 移植直後～ノビエ3.5葉期(ただし、移植後30日まで)
7	アシュラフロアブル 500ml 移植直後～ノビエ4葉期(ただし、移植後30日まで)
8	アツパレZフロアブル 500ml 移植後3日～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)
9	カウントダウンジャンボ 10個(400g) 移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)
10	アールタイプジャンボ 10個(400g) 移植後3日～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)
11	カイリキZジャンボ 10個(300g) 移植後3日～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)
12	ベッカク豆つぶ250 250g 移植後3日～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)
13	
14	アピログロウMX1キロ粒剤 1kg 移植直後～ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)
15	
16	※フェントラザミドを含む農薬の使用回数は1回以内(カウントダウンフロアブル、カウントダウンジャンボ)
17	※メタソルフロンを含む農薬の使用回数は2回以内(アールタイプジャンボ、レプラスジャンボ)
18	
19	※アシュラフロアブル、カウントダウンフロアブル、カウントダウンジャンボは葉害を生じるおそれがあるので、後作物としてせず、たまねぎ および さやえんどうを栽培しないで下さい。
20	
21	※カイリキZジャンボ、アピログロウMX1キロ粒剤、セカンドショットSジャンボMX、レプラスジャンボは葉害が生じるので、飼料米には使用しないで下さい。
22	
23	※ 本表の日数は、おおむねの日数です。
24	ノビエの葉令に注意して、防除しましょう。
5	
30	

雑草の多い処理体系				
-9	※田植前に除草剤を使用する場合は、7日間落水禁止			-9
-8				-8
-7				-7
-6				-6
-5				-5
-4				-4
-3				-3
-2				-2
-1				-1
田植日				田植日
1				1
2				2
3				3
4				4
5				5
6	※シヨキニー250グラムは田植前処理不可			6
7	※クリアホープフロアブルの使用につきましては流し込み処理を基本とする。詳細につきましては指導員に相談してください。			7
8				8
9				9
10				10
11				11
12				12
13				13
14				14
15				15
16				16
17				17
18				18
19				19
20				20
21				21
22				22
23				23
24				24
5				5
30				30

補完農薬	藻類(アオミドロ、アミミドロ)	ノビエ(4葉期まで)	一年生雑草・多年生雑草	
	モゲトン粒剤 2～3kg	ヒエクリーン豆つぶ 250G	セカンドショットSジャンボMX 20個(500g)	レプラスジャンボ 10個(400g)
	藻類の発生始～発生盛期(但し収穫45日前まで)	移植後15日～ノビエ4葉期(ただし、収穫45日前まで)	移植後14日～ノビエ3.5葉期(ただし、収穫45日前まで)	移植後14日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)

## ◆◆◆ 注意事項 ◆◆◆

- 使用する薬剤により使用時期、使用方法、使用量が異なります。ラベルの注意書きをよくお読みください。
- 稲刈り直後に雑草が残る場合は、「ラウンドアップマックスロード」、「タッチダウンIQ」を50～100倍に薄めて雑草の茎葉部に散布。
- クログワイ多発田では、初期除草剤+「アツパレZフロアブル」、「アピログロウMX1キロ粒剤」、「レプラスジャンボ」等の体系防除とする。
- オモダカ多発田では、初期除草剤+「アツパレZフロアブル」、「アピログロウMX1キロ粒剤」、「レプラスジャンボ」等の体系防除とする。
- 水持ちの悪い水田では、「初期除草剤」+「粒剤」の体系防除とする。
- 藻類多発田では、「クリアホープ」(初期剤)+「アシュラフロアブル」もしくは「レプラスジャンボ」等の体系防除とする。
- 在庫の農薬は、使用期限、使用基準を守って散布する。

### 雑草稲(赤米等)発生圃場での防除

## 近年赤米が多発しております！！

雑草稲(赤米等)推奨農薬		
○1回目	○2回目	○3回目
エリジャンジャンボ	カチボシLジャンボ	カウントダウンジャンボ
エリジャン乳剤		

### 雑草稲(赤米等)とは？

- 外見上の特徴は、赤～褐色の芒(籾の先端の毛)があり、籾の先端に赤～濃褐色のふ先色がある。
- 玄米形状は、やや長粒で種皮が農褐色～赤色をしている。
- 雑草イネ(赤米・トウコン)は混入すると銘柄落ち・等級落ちになります。赤米の根絶に向けて、農家の皆様のご協力をお願い致します。
- 越冬中の凍み上がりで雑草イネの発芽率を低下させるため、また鳥に食べさせるため秋起しは行わないようにする。
- 雑草イネは一度発生すると駆除に3～4年かかってしまうため継続した体系防除を行う。

赤米かな？と思ったら地区営農指導員へご相談ください！！

★★★栽培管理日誌は必ず記帳しましょう★★★

## ☆ 水田除草剤使用上の注意事項

### ◎ 共通事項

☞ 水田の農薬散布後は、7日間の止め水管理をしましょう。

共通事項

- ① 天候、苗の善し悪し、散布時期、散布量、代かきを平に、水管理などの基本事項を守り正しい使用をする。
- ② 発生する雑草の種類に除草剤を選定し、適期散布に心掛ける。
- ③ 使用する薬剤によって、使用時期・使用方法・使用量などが全く異なるので、使用する前に必ずラベルの注意事項を読む。
- ④ 使用時期を、田植え後の日数だけで決めると、年によって天候が違い散布適期とならない場合があるので、草(特にノビエ)の発生状況を見て決めることが重要。
- ⑤ 除草剤の効果を高めるためには、水持ちの良いことが絶対条件であるので、水持ちの悪い水田では代かきを丁寧に行うとともに、薬剤散布後3～5日間は水を切らさない。ただし、バサグラン粒剤(ナトリウム塩)は落水してから使用する。
- ⑥ 雑草の多い水田では、一発剤では効果が劣る場合があるので、初期+中期の体系処理をする。
- ⑦ 代かきから田植えまで1週間以上間隔がある場合は、田植え前に処理する初期剤を使用する。
- ⑧ 代かき以降の温度が高いと雑草の発生も早まるので、日数のみに頼ることなく雑草の発生状況を観察して遅れないように散布する。
- ⑨ 後期除草剤は、幼穂形成期に入ってから使用すると薬害の恐れがあるので、遅れないように注意する。

### ◎ 特別に注意する事項

◆使用前に、注意書きをよく読んでください。

特別に注意する事項

#### 【1kg剤の取扱について】

- ◎ アピログロウMX1キロ粒剤の使用量は10a当り1kgです。
- ◎ 袋に「〇〇〇〇1キロ粒剤」と記入してあります。
- ◎ 1kg剤は3kg剤に比べて、粒が大きく飛びやすくなっています。最初は少なめに撒いて、散布量の確認をしてから本格的に散布してください。
- ◎ 動力散布機(ミスト機)を使用する場合は、1kg剤用の部品が用意されているものがありますので、工機担当者に相談してください。  
(1kg剤対応と記入してある機種は、説明書にしたがって使用してください。)
- ◎ 手回し散粒機を使用する場合は、歩く速度と開度によって差がありますので、吐出量の確認をしてから本格的に散布してください。

#### 【フロアブル剤の取扱いについて】

- ◎ ボトルに「〇〇〇〇フロアブル」とある除草剤は原液を水田に直接散布するだけで効果があります。
- ◎ 水中に成分が拡散しますので、散布時から散布後5日間は地面が露出しないよう水管理を徹底してください。
- ◎ ボトルの中で沈殿しやすいので、使用前によく振ってください。

#### 【ピラクロンフロアブル・クリアホープ・サキドリEWの取扱いについて】

- ◎ 浅水の場合薬害が発生したり効果が低下したりするので、3cm以上の水深として、ていねいに散布してください。
- ◎ クリアホープフロアブルの使用につきましては、流し込み処理を基本とする。詳細につきましては指導員に相談してください。

#### 【ジャンボ剤・パック剤・豆つぶ剤の取扱いについて】

- ◎ 散布にあたっては、湛水深5cm以上とし完全に水を止めてから散布してください。
- ◎ 藻類や浮き草が発生している水田では、拡散が不十分となり効果が劣るので使用しないでください。
- ◎ 濡れた手で作業をしたり、降雨で破袋しないよう注意してください。

★★★栽培管理日誌は必ず記帳しましょう★★★

# 令和3年度 水稲病害虫防除基準

令和2年11月30日現在

病害虫名	薬剤名	使用量	防除の時期と防除法	注意事項
種子伝染性病害 (ばか苗病) (細菌性病害)	テクリードCフロアブル	30ml (種子粃 3kg) (水 6L)	200倍液に24時間浸漬後、 浸種する。	①分離しやすいので、容器をよく振ってから使用する。 ②液量比は、1:1とする。 ③液温は、10℃以上とする。 ④消毒後水洗せず、浸種は停滞水で行い2~3日間は換水しない。 ⑤みのる式及びポット育苗では、根上がりがり起きやすいので使用しない。(ベンレートT水和剤を使用する) ⑥種子消毒の残液は河川に放流しない。 ⑦エコホープDJ使用の場合は、営農指導担当者に相談してください。
	エコホープDJ	30g (種子粃 3kg) (水 6L)	200倍液に24時間浸漬後、 浸種または、催芽時に処理。	
苗立枯病 ムレ苗	床土による区分			①農薬だけで立枯病・ムレ苗を防止することは出来ない ので、土のpH調整・温度管理を併せて行う。 ②エコホープDJを使用する場合はダコニール1000の、 1000倍液1L(土 5L)を使用する。 ③高温・多湿によりカビ等の発生が多いので、出芽時 適温を守る。 ④乾燥状態の床土は、根上がりがり生じやすいので 初期かん水は十分行う。
	人工培土 及び 人工マット	ダコレート水和剤	1箱当り 1000倍液 1L (土 5L) 稚苗・中苗とも1箱当り ダコレート1g を水1Lに 溶かして覆土前にかん水を 兼ねて行う。	
	水田の土等	タチガレエースM 粉剤	1箱当り 8g (土 5L) 稚苗・中苗とも播種前5日~ 播種までに、床土と混和する。	
移植後の初期病害虫 ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ (稲黄萎病対策)	アドマイヤーCR箱粒剤 (播種時【覆土前】~移植当日)	苗箱1箱当り 50g	○苗箱へ均一に散布する。	①漏水田や軟弱徒長苗では、薬害の恐れがあるので 注意する。 ②魚類、甲殻類への影響が高いため、止水を行い 水管理に注意する。 ③用水路での苗箱の洗浄は行わない。 ④整地が不均整だと薬害を生じやすいため、代かきは 丁寧に行い、移植後田面が露出しないよう注意する。
	ダントツ粒剤 (移植3日前~移植当日)	苗箱1箱当り 50g	○葉に付いている露を払い 落とし、粒剤を散布後軽く 散水し、土壌表面に付着さ せる。 ○穂いもち多発田については デジタルミネクト箱粒剤使用 とする。	
上段の水稲初期害虫 と いもち病同時防除	ルーチンデュオ箱粒剤 (播種時【覆土前】~移植当日)	苗箱1箱当り 50g	○穂いもち多発田については デジタルミネクト箱粒剤使用 とする。	
	デジタルミネクト箱粒剤 (移植3日前~移植当日)	苗箱1箱当り 50g		
イネミズゾウムシ (本田・成虫)	なげこみトレボン (5葉期以降 収穫21日前まで)	300ml (50ml × 6)	①苗箱施薬での効果が高いので、本田での水面施薬の必要はないが、越冬成虫の 飛込みが長引く場合や、著しく初期生育が阻害される場合は、本田への施用が 必要となる。 ②畦畔の周囲への散布で、効果が上がる。 ③なげこみトレボンは、蚕毒・魚毒が強いので注意する。 ④本田に水溶性容器のまま投げ入れる。	

防 除 対 策	
<b>稲黄萎病対策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 稲黄萎病を媒介するツマグロヨコバイの総合防除を行う。</li> <li>◎ 特に苗代及び植え付け直後の初期感染を防止する。</li> <li>◎ 稲刈後の株から、黄色いヒコバエが発生した圃場および、その周辺圃場では特に注意が必要。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 稲黄萎病の発生が懸念される圃場では、アドマイヤーCR箱粒剤・デジタルミネクト箱粒剤・ルーチンデュオ箱粒剤を使用する。</li> <li>② 春先の畦畔雑草焼却の実施。(地区毎、計画的に一斉実施する)</li> <li>③ 田植え時期は早すぎないように注意する。</li> <li>④ 苗箱施薬の完全実施。</li> <li>⑤ 夏期のスタークル豆つぶによる防除。(発生予察に基づく防除)</li> <li>⑥ 早目の秋起こしの実施。</li> </ul> </li> </ul>

★★★栽培管理日誌は必ず記帳しましょう★★★

# 令和3年度 水稻病害虫防除基準

令和2年11月30日現在

病害虫名	薬 剤 名	使用量	防除の適期と防除法	注 意 事 項
葉 い も ち	ブラシン粉剤DL (収穫7日前まで)	3~4kg	◎葉いもち ①粉剤の場合 初発期に防除する。 ②粒剤・ジャンボ剤の場合 初発10日前に防除する。	①葉いもちは、発見しだい薬剤散布を行い、穂・節いもちは予防防除する。 ②オリブライト250Gは、穂いもち予防を目的とする。 ただし、葉いもち発生の場合は、初発後10日以内に実施しても治療効果がある。 ③穂・節いもちの多発が予想される場合は、穂ばらみ期・出穂期の他出穂5日後と10日後に、追加散布を行う。 ④散布後3~4日は、水を切らさない。 ⑤粒剤・ジャンボ剤は、予防的に散布した場合に有効なので、遅れないように散布する。穂・節いもちの発生の恐れのあるときは、粉剤による追加防除を必要とする。 ⑥コラトップジャンボP・オリブライト250Gを使用する場合は、必ず水面に落とす。
	オリブライト250G (出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで)	250g		
	コラトップ粒剤5 (葉いもち、初発10日前 ~初発時 穂いもち、出穂30日前 ~5日前まで)	3~4kg	◎穂・節いもち ①粉剤の場合 穂ばらみ期と出穂期、以後全般	
	コラトップジャンボP(50g×10) (葉いもち、初発20日前 ~初発時 穂いもち、出穂30日前 ~5日前まで)	500~650g (50g×10個~13個)	②粒剤・ジャンボ剤の場合 出穂20日前に散布する 水深3~4cm以上とし、 散布後3~4日は水を 移動させない。	
穂 い も ち	フジワン粒剤 (葉いもち、初発7~10日前 穂いもち、出穂10~30日前 ただし、収穫30日前まで)	3~5kg		
紋 枯 病	オリブライト250G (出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで)	250g	○散布にあたっては水深を 3cm以上とし、散布後7日間 は止め水とする。	①前年度発生が多かったところは、特に初期防除を実施する。 ②密植栽培、多肥栽培では株間温度も高まり発病の助長要因となるので、株数・肥培管理に注意する。
	モンガリット粒剤 (収穫45日前まで)	3~4kg		
イネドロオイムシ	なげこみトレボン (5葉期以降 収穫21日前まで)	300ml (50ml×6)	○幼虫加害初期 (6月上旬~下旬)	①苗箱施薬での効果が高いので、本田での水面施薬の必要はないが、越冬成虫の飛込みが長引く場合や、著しく初期生育が阻害される場合は、本田への施用が必要となる。 ②畦畔の周囲への散布で、効果が上がる。 ③なげこみトレボンは、蚕毒・魚毒が強いので注意する。 ④本田に水溶性容器のまま投げ入れる。
イ ナ ゴ 類 (クサキリ含む)	MR.ジョーカー粉剤DL (収穫 7日前まで)	3~4kg	○7月中下旬	①幼虫初期に畦畔際を重点に防除する。 ※MR.ジョーカー粉剤DLは、蚕毒・魚毒が強いので指定地域に限る。 【合成ピレスロイド剤の指定地域は別頁参照】
イネツトムシ ニカメイチュウ	パダン粒剤4 (収穫30日前まで)	3~4kg	○7月中旬~8月初旬	①遅植など生育の遅れた場合に、発生が多い。 ②防除が遅れると効果が無い。 ※パダン粒剤4は、蚕毒・魚毒が強いので注意する。
ツマグロヨコバイ ウ ン カ 類 (出穂初期吸汁害)	スタークル豆つぶ (収穫 7日前まで)	250g	○7月中旬~8月中旬	①早植栽培のほうが、発生が多い。 ②多肥栽培では発生が多くなるので、肥培管理に注意する。
	スミバツサ粉剤20DL (収穫21日前まで)	3~4kg		
カ メ ム シ 類 ( 斑 点 米 )	スタークル豆つぶ (収穫 7日前まで)	250g	○出穂7日後に防除	①早生品種は斑点米が発生しやすいので、必ず散布する。 ②春先のあぜ焼きの実施により、越冬虫を減らす。 ③5月~7月中旬までに、畦畔雑草の刈り取りを必ず実施する。 ④米の品質を著しく低下させるので、徹底した防除を行う。
	キラップ粒剤 (収穫 14日前まで)	3kg	○出穂期に防除	
	MR. ジョーカー粉剤DL (収穫 7日前まで)	3~4kg	○出穂10日後に防除	
	スミチオン乳剤 (収穫21日前まで)	1000倍を150L	○畦畔を含めた全体を 防除する。	

◆合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒性が極めて強いので、使用地域の指定があるので、これ以外では使用しないこと。  
(別頁【合成ピレスロイド剤・IGR剤含有する農薬及びBT剤使用地域の指定について】参照)

★★★栽培管理日誌は必ず記帳しましょう★★★